

令和2年度第2回 庄原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和2年10月30日(金) 午後4時00分～午後6時00分
場 所	交通交流施設(備後庄原駅舎)
出席委員	加藤博和会長 山根英徳副会長 井上清憲委員 岡崎輝子委員 森木萬利委員 深川尚子委員 田村富夫委員 米田正裕委員 土井弘文委員(代理:今田氏) 田原尚樹委員 伊本浩之委員 佐々木満委員(代理:平田氏) 石川芳秀委員 山田和孝委員(代理:畠中氏) 森岡浩委員 尾野素子委員
欠席委員	石田光雄委員 山本尚委員 山本直人委員 土井幹雄委員 後藤茂行委員
委員以外の 出席者	呉工業高等専門学校 神田教授 備北交通(株) 稲垣氏 株式会社バイタルリード 遠藤氏、武田氏
事務局	毛利久子市民生活課長 田辺靖雄市民生活課市民生活係長 沖田晋耶市民生活課市民生活係主任

1 開 会

会長:

今年度の7月に第1回交通会議を開催し、庄原市の地域公共交通計画を策定するため新しいメンバーに加わっていただき、検討を進めるため今回第2回目を開催する。

事務局:

本人出席13名、代理出席3名、欠席5名で、本会議の成立を報告
会議の内容は公表となっている。議事録署名は会長と事務局長が行う。

2 資料

- ・会議次第
- ・庄原市地域公共交通会議委員名簿
- ・資料1 「庄原駅」停留所の新設に伴う運賃の設定について
- ・資料2 予約型バス(デマンドバス)運行実験事業(令和2年度庄原MaaS検討協議会実施事業)の実施について
- ・資料3 庄原市地域公共交通計画の策定方法について
- ・資料4 10/7開催 第1回ワーキング会議報告
- ・別冊 庄原市生活交通ネットワーク再編計画

3 委員以外の出席者の紹介

事務局から出席者を紹介

- ・ワーキング会議の座長 呉高専の神田祐亮教授
- ・地域公共交通計画策定の調査業務受託事業者 株式会社バイタルリードの遠藤さん、武田さん
- ・備北交通 稲垣さん

4 協議事項

会長:

協議事項の前に、第1回の交通会議、並びに書面審議に対する質問について、事務局から回答・説明

をお願いする。

事務局：

第1回の交通会議の資料について、市街地循環バス、庄原地域のデマンドバスの利用者が平成30年度と比べて大きく減った要因を説明する。平成30年度は二つの系統に分けて運行していたが、路線はそのままの一つの系統としたことによるカウントの仕方が要因であった。

2点目、9月に市営バスの継続に係る書面審議をお願いした際に附帯意見として「市営バスの必要性、費用対効果について説明頂きたい」と意見があった。まず、庄原市のバス運行は、備北交通等が運行する一般ローカル路線、それから国道から少し入った地域を運行している地域生活バス、三つ目に自家用有償運送の形で運行している市営バスがある。この市営バスは、以前は交通事業者が運行されていたが利用者減や運転手不足等の理由から撤退された。しかし、利用者が一定数あり、また小学生・中学生・高校生が通学に利用されているため、この路線を廃止すると生活に大きな影響が生じると判断し、市営バスとして運行に至った。今年度を最終年度としている生活交通ネットワーク再編計画においても、通学利用されているバスについては確保する旨の方針を定めているため、市営バスの継続について書面審議をお願いした次第である。費用対効果については、スクールバスを兼ねており、小中学生の通学の運賃は無料のため収益が上がりにくい面もあるが、小型車両での運行をタクシー会社等に委託しており、経費を抑えながら市民の移動の確保を行っている。

《質疑・意見交換》

特になし

(1) 「庄原駅」停留所の新設に伴う運賃の設定について 【資料1】

事務局：

第1回の会議に若干説明したとおり、この協議会には二つの役割があり、一つは道路運送法に基づき運賃や経路等を協議いただく交通会議、もう一つは今年度計画を策定する上での、活性化再生法に基づく法定協議会という二つの意味合いがある。本日の協議事項1と2については、道路運送法に定める運賃・経路等について協議いただく。

《質疑・意見交換》

特になし

《承認》

全員承認

会長：

ちなみに備北交通はもう手続きされているか。

委員：

路線図の修正である。

(2) 予約型バス（デマンドバス）運行実験事業 【資料2】

事務局：

昨年度庄原の峰田地域と本村地域で行った実験の第二弾として、予約型デマンドバス運行実験を今年度実施する。具体的な時刻、バススポットについては運行事業者の備北交通から説明してもらう。

備北交通：

資料2を説明

《質疑・意見交換》

会長：

募集するモニターに県立大学の学生と教職員が入っているが、一般はエリア内、山内等の居住者に限られるのか、募集の範囲を教えてください。今県立大学のスクールバスが定時定路線で学生や教職員の方を対象に平日に運行しているが、この期間中も今のダイヤそのまま平行して走るのか。県立大学と庄原市街地であるとか、山内と庄原市街地といったエリア間・足の長い利用と、山内エリア内や東エリア内といったエリア内での短い利用、それを混在させて予約に応じて運行するという事で良いか。エリア内の動きが無ければ県大から市街地まで直接来るが、エリア内のものがあればそこを処理した上で市街地に到達するなど、色々な想定を含めて実験するという事か。

事務局：

モニターは、地域内・区域内の人に対して募集をかける。エリア内の人でお願いしたい。

備北交通：

二点目の実験中のことだが、スクールバスは特定乗合バス事業として行なっているが、期間中も通常ダイヤで運行するため、このデマンドバスはこれにプラスαで走る形をとる。エリア内の乗降について5ページのとおり、この営業区域の図では各区域での乗降という事で、東区域、山内区域、県大区域は乗降可能としている。庄原市街中心部だけは、市内中心部のバス停で乗って同区域のバス停で降りる事は不可としている。市中心部の移動に利用出来れば一番良いのだが、システマ的なものと、こちらが今は1便概ね45分を想定している。先程言った通り人が少ない場合は短くなり、予約が非常に多い場合は長くなる可能性もあり、市中心部で乗降していれば折り返しの時間に間に合わなくなる可能性が非常に高いため、今回の実験では中心部のみの乗降は不可としている。しかし、先程の説明の通り、サブスクリプションで月額料金を払うと、庄原市内の路線バスが備北交通及びひまわりバスで乗り放題となるので、そのような目的の移動はそちらを利用していただければと思う。

委員：

昨年からの実験を継続しており、今回2回目を行うが、この地域公共交通会議で本日はご出席ではないがタクシー協会の方、タクシー会社の方が居られるのでこの場で明言しておく。今回、並びに前回についてはデマンドバスに焦点を置いて実験を行っている。ワーキング会議でも発言したが、今後これをバスのみならず、タクシー、介護事業者の福祉車両、または法律の関係はあるが白タク・自家用有償運送などと、バスや電車を繋いで地域の交通を維持していくという事であり、全ての交通手段を排除するものではない。むしろ協調を図っていく上で本実験を行う。そのデータを用いて今後皆さんと協議しながら、良いものを構築するために今回の実験を行うものである。

会長：

前向きなというか、MaaSの様々な取り組みの一環、一里塚になるような実験である。

《承認》

全員承認

会長：

実験がスタートするので準備をよろしく願います。

これからモニターを募集するのか、既に募集されているのか。

事務局：

募集はこれから開始する。本日地元の自治会長にお伺いをして内容を説明し、来週から本格的に募集の声かけをしていく予定である。

5 報告事項

(1) 庄原市地域公共交通計画の策定方法について 【資料3】

事務局 資料3「ワーキング会議の位置付け」まで説明

受託事業者 資料3「スケジュール」及び「ヒアリング調査」について説明

会長：

報告事項の説明として地域公共交通計画の策定方法について、前回会議では専門のコンサルタント事業者と契約して進めるという事と、ワーキング会議を設置するという事だった。ワーキング会議についてはこの後報告があるが、色々と意見を出して策定していく。タイムスケジュール、工程等についてご意見・ご質問等あればお願いします。

委員：

ヒアリング調査について、商業施設は東城、西城、比和、高野、口和、総領等にあるが、合併してからの支所行政が行われるようになって、今もその地域の中心施設にて商業活動が行われている。大小関わらず、一生懸命頑張っておられる商業施設を追加して頂ければと思う。提案では東城、西城、旧庄原地区しかないが、それぞれの地域的に商業活動が違っているので、他の地域も事業者の生の声を聞いて、この計画に反映して頂ければと思う。

会長：

ここに挙がっていない旧市町の関係者にもヒアリングをとという事だがいかがか。

事務局：

各旧市町に伺う事にしており、日程調整をしながらこれらの施設を把握して聞き取りをしていきたい。

委員：

勤めが比和観光で交通に携わっており気になったのだが、ヒアリングが11月という事で各事業者に事前に聞取内容の資料や項目内容をあげて頂ければ、具体的な数字等、正確なお答えが出来るかと思う。

加えて、教育委員会への聞取内容として、スクールバスや保護者からの意見等が入っているが、教育委員会がヒアリングに向けて保護者等に聞き取りをするという事はおそらくない。教育委員会の考えだけをヒアリングで答えられるのであれば、保護者や学生の意見を聞くのが住民アンケートまで先延ばしになり、それは遅いのではないかと思う。具体的にもう少し末端の、実際に使われる学生や保護者、高齢の住民等の意見をもう少しすくい出されるように、対象の事業主、団体に事前に聞き取り内容の資料をお送り頂ければ具体的な意見があげやすいのではないかと思った。そういった点は計画に入っているのか。

事務局：

交通事業者については受託事業者から事前に日程調整をさせて頂く事としており、その際に聞き取り事項を連絡する。必要であれば項目などを文書でお願いします。

PTA・保護者等にスクールバスの事について、事前にヒアリングをしないのかという質問について、お集まりいただくのが難しいと思っており、まずは教育委員会にヒアリングし、教育委員会が拾っている声等を確認したいと思う。実際に高校生・大学生・住民にアンケートをする時に、そのあたりの課題等も把握しながら行う。自治振興区等にも伺うようにしているので、そこに保護者の方にも出ていただけるなら一番有難いと思うが、できるだけそういう所からスクールバスについての地域の考えを調査するよう考えている。

受託事業者：

日程調整の時に項目を書いたシートを送るため、聞き取り事項は事前にわかる。

会長：

後段のところは実際に利用している方の意見まで吸い上げて欲しいという事。委員には、団体や組織にヒアリングするとそこで止まってしまう事が気になるとご指摘いただいた。

委員：

工程で気になったのが、「6.事業等の検討」の市民アンケートである。市民のニーズが自治振興区等の地域から上がってくるようになってきているが、本当に公共交通機関を活用する人、あるいは活用したい市民一人一人のニーズが掴めるのか気になっている。私も4月から庄原に来て、その前の場所でも路線バス等を使っていた。もし元々他の地域で公共交通機関を使っていたという方が、東城や西城あるいは庄原の方に越して来て使わなくなった理由は何なのか。あるいは「こうだったら使える」という事がもし掴めれば、本当のニーズが掴めるかと思う。この市民アンケートの内容がネットワーク計画の評価等の話になっているが、大学生のアンケート等で公共交通機関に対するニーズの把握、間に合うのであれば市民のニーズをもう少し幅広く把握する方法は無い物かと気になった。

会長：

今後のニーズや使われなくなった理由が市民アンケートで拾えればということ。今の事について事務局いかがか。

事務局：

移動のニーズ、実際に公共交通を利用する人の意見の把握方法のご質問であろうかと思う。現状では自治振興区でのヒアリングを中心にと考えているが、委員の意見のようにこれから市民アンケートの項目の検討を重ねていくので、その際に再度検討させて頂きたい。

委員：

やはり庄原に元々ずっと長く住んでいる人の意見と、他所から来て庄原のこの状況を見た人の意見はかなり違うと思うため、検討をお願いします。

委員：

庄原市の公共交通計画の策定について、1ページのワーキングのメンバーにもあるように、「10 第四次産業革命日本センター」、世界経済フォーラムと連携して進めるという事で、どのような新しい視点が出て来るか非常に期待をしている。先程指摘があったアンケートを後で実施するという点であるが、通常、公共交通計画を作る時にまず市民アンケートをして、その中で意見を整理してそれから事業案が出て来るのが一般的な流れであり、この工程に非常に違和感、懸念が感じられるのは理解できる。この計画策定に向けた考え方として、まずアンケートで聞くよりも、一定の意見を集約して論点や事業案の「聞きたいところ」をはっきりさせてから聞いていく方法と理解している。この方法に皆様の賛同とご協力が得られれば非常に良いことにはないかと思っている。

委員：

強いてここで市民アンケートのまとめにくい所を挙げると、「安かったら乗る」、「ニーズが多かったら乗る」等、色々な事情が考慮されない意見に傾きがちである。その点に対し、現実に考えうる案を示して、それから聞いていくこの方法には、今後に向けて非常に大きな可能性があるのではないかと思う。

委員：

おっしゃる通りで、先程も話があったように漠然とアンケートをして、実際に利用したことが無い人に尋ねてもなかなかぼんやりとした意見になる。ある程度ポイントを絞った上でアンケートをするのは

非常に効果的な話である。

委員：

先程委員がおっしゃった外来の人、外から来て住まれている人の意見を事前の段階で拾う所が無い点については、確かにそうだと思う。アンケートという形では無く、移住者の方であるとか、どこか接点のある所から事前に示唆を得る方法もある。

事務局：

外から転入された方、または学生等について、庄原以外の公共交通を今まで使って来た人が庄原の公共交通についてどのように評価をされるかについては、県大生へのWEBアンケートや、人口の1割弱である3,000人位を対象に行う住民アンケートで把握できないかと考える。その中で転入した人にフラグを立てるような方法をしながら検討していきたいと考えている。

会長：

アンケートの設計や抽出方法、対象等をこれから良い形に検討していくという事で、複数の方がご指摘頂いた意見を汲んでいただければと思う。

先程のMaaSのモニターの方にもMaaS繋がりで聞いても良いかもしれない。ヒアリング調査の対象のところで、交通事業者のところにバス・タクシー事業者がラインナップされているが、ここ備後庄原駅もリニューアルして芸備線等についてもどんどん活性化していこうという事であるので、JR西等鉄道関係もヒアリングしてはどうかと思う。また、先程委員からそれぞれの地域の中心にある商業施設等へのヒアリングの発言があった。旧庄原市のザ・ビッグ等もひまわりバス等での移動が多い所かと思う。その他、色々バイパス筋のお店などがあるが、もう少し検討・追加しても良いと思う。MaaSの協議会にも入っておられるが庄原日赤等、病院関係へのヒアリングも候補に加えても良いと思う。観光関係では組織や、束ねている所に行くという事だが、かんぼの郷や備北丘陵公園等、多くの観光客を集客しているところにピンポイントで聞くというのも案かと思っている。一つの案であるので、また進めて頂く中で増やせたらと思う。

(2) 10/7 開催 第1回ワーキング会議報告 【資料4】

神田氏：

ワーキングの報告資料4でまとめているが、その前に何故この形で計画策定を行うのか説明する。

一つは庄原は当面は人口減少がさらに加速し、かつ後期高齢者が一気に増えるという事。ちょうど庄原の人口は第2次ベビーブームの方が非常に膨らんでいて、今その人たちが75歳に差しかけたところ。この人たちが人口比率の多数を占めており、車を手放す時期が一度にやって来る。その時に人口減少対策だけでなく、元気な高齢者の交通をどう確保するのが求められている。今まではどちらかと言えば公共交通は学生とお年寄りのイメージであると思うが、元気な人の動き、あるいは少し議論に出た、外の方の動きをどうするのかを考えていかなければいけないというのが大きな一つの背景としてある。

二つ目は、昨年度から取り組んでいるMaaS等、交通の流れが一気に変わってきている状態である。恐らく過疎地の交通がフォーカスされる事は以前はなかったと思う。その中で昨年度関係の皆様のご尽力もあり、庄原は「先進過疎地MaaS」を掲げていたが、正に先進的状态として取り扱われている。

世界経済フォーラム第四次産業革命センターとは一体何か、ということがあると思う。黒船のような感じもあると思うが、逆に世界共通の課題が高齢化という事があって、MaaSで尖っていく庄原で色々考えていこうという経緯がある。その中でバス、タクシーだけではなく時代がこの先既に近づいてきていて、それに組み込んでおきたいという意図である。

三つめは、国の公共交通の制度が今年変わる。法改正が進んでおり11月には公共交通の立て方も変わってくる中で、あまり表に出ていないが、先例を打って色々やってみる実験区にもなっており、その中で今回のこのワーキングを実施する。少しアンケートが違うという話もあったが、そういった経緯となっている。アンケートとは普通民間企業で商品開発をされる時は、出来た商品が果たして売れるか

どうかテストマーケティングの形で実施されると思うが、今回はその方法を採用していると思って頂ければ良い。大体地域の方々の動きは、皆様これだけ集まると肌感覚で分かっていると思うので、むしろ大まかな人の動きとニーズを掴んでおいて、果たして該当する事業ができるのかできないのか、アンケートを含めて詰めるのが今回のアプローチ。今まで国内でそのような事例は少なく違和感があると思うのだが、まとまった段階で良い物が出来れば良いと考える。あとは出来るだけ多くの皆様で作ったという事を残しておきたいと思っていて、ワーキングでも今日出席の方、新たに入る方もおられるが、それぞれが「この計画を策定しているんだ」というものが出来たら良い。

その中で資料にもたくさん意見が出てきている。紹介するが、むしろ「こんな事も困っている」という事をこの場で皆さんと補完できると有難い。資料は4ページに渡るが、「こんな視点で聞いた」という事をゆっくりお話しし、「それはうちの地域もだ」というのも含めて発言いただければ。1市6町に分けている他、旧庄原市は街中と郊外で様子が違うため、ワーキングではそこを分けて意見を聞いた。

- ・まちの状況では、やはり人口減少が各地で深刻で、特に旧町部が非常に深刻である。庄原の方はここに書いてあるが、大体駅は中心部になっているはずなのに中心部では無いと、町の構造の課題なども出てきた。
- ・人の動き、通勤通学について、特に公共交通は通学主体になっていると思うが、部活をやっていると高野から庄原に通学できず寮に入らざるを得ない。あとは口和や高野、比和等バスが高すぎて保護者が送迎しているという問題。買い物・通院については、地域ごと1市6町動きが全然違うというところがあると思う。店が少なくなったという声が結構あった。
- ・観光について、庄原まで高速バス、芸備線で来られるが、その先がなかなか公共交通で動けないことや、空港に行けない等もある。
- ・JRについては、定時性は良いが雪や雨が降るなどですぐ止まる等の話が多々あった。芸備線の一日三本、日本の中で有数の極少区間と言われているところも指摘としてあった。
- ・高速バスも備北交通さんが中心になると思うが、東城一庄原間が高いとか、トイレがないことへの不安があった。また、高速バスのバス停を降りるとなかなか和知、帝釈のバス停等は降りてから困るという声もあった。
- ・路線バスについて最も深刻なのは利用者より乗務員が足りないという問題である。これは庄原に限らず全国共通であると思うが、今後どこに向かって行くのか。あるいは市街地循環バス、比較的用户が多い状況の中で最近時間が掛かり過ぎており、どうしていくかという話もあった。
- ・バス停に自転車が増えたら良いという声があった。
- ・今年度 MaaS の実験がある七塚・山内等は平坦な所が多いが、バス停までどうやって行くのかという問題が報告されており、ここにどう関わるのかということ。
- ・生活バスについての便数の少ない区間の問題等もある。
- ・タクシーについては夜稼働していない、あるいは乗りたいけれど電話して待つことが多い、あるいはそもそもの利用距離が長く4~5千円はすぐに掛かってしまうという事もあった。
- ・市民タクシーについては事務局の手続きの煩雑さが課題として挙げられた。
- ・福祉について老人ホームの入居者が中々出られる手段が無いという意見も出ている。
- ・福祉タクシーの担い手不足という声もあった。
- ・スクールバスについては、タクシーとのバランスもあると思うが、タクシー兼スクールといった形態で実施している所も多く、スクールバスが動いているとタクシーが使えないという問題。あとは色々議論があるとは思いますが、スクールバスを普通のバスの他のお客さんと一緒にするのかしないのかという議論も出てきている。安全が確保される反面社会性を犠牲にする可能性もあるという声も出た。
- ・その他、こうした現状にどうしていくのかという意見も多く、近場の移動がなかなか大変で乗り合わせ、相乗りが一番だと思うのだが、気兼ねをすることもあり、何かあった時どうするのかという意見があった。
- ・恐らく公共交通を使っていない方がかなりいるため、一回でも乗ってもらえば良いのではないかと、そういったイベントをするのかどうか盛り込んでいくべきという意見があった。

・親が乗らないから子供も乗らないのだという話もあった。

ワーキングも時間に限りがあり、各地域バランス良く全部挙がっているとも言い難い点もあるので、是非この場で少しご勘案下されば有難い。今後の進め方については事務局から説明があり、色々な改善策が出てきている。10月13日にそれを一旦ワーキングに出ている皆様の中で一度インプットし、そこからやり方を少し粗く考えていって、このやり方が使えるのか、使えないのか一度仮説を立てていき色々考えていく方法を取っていこうと思っている。

6 意見交換

会長：

ワーキングの背景や意義、内容、今後の予定もあったが、意見交換もあわせて集まっておられる委員の皆様から是非ご意見いただきたい。補完するような意見・新しい意見でもよい。色々意見を聞かせて頂き共有したい。

委員：

この度こうした経済団体の一員として商工会も入れて頂いた。商工会議所と違う所は商工会は本当に小さな規模の事業者の応援をしている団体であること。先程神田教授と同じ事を思っており、非常に事業者側からの危機感を感じている。どの業界でも大きい会社があり、中堅がいて、小さい会社がいる訳だが、我々の商工会は小規模事業者を守り、継続的に事業経営を応援する立場でもある。その観点から、これから高齢化して一人暮らしも多くなり、本当に買い物に行くにも不便であるし、そういう所で例えば一人一人が軽トラタクシーのような形で応援しなければ、日々の生活が困難な状況だと思っている。

今の庄原市の郡部と言えれば西城・高野・比和・総領・東城。東城は山奥に行ったら何に乗って出てきているのか分からないお年寄りがたくさんいる。そういう人々に是非目を向け、ここ5年の計画を立てられる訳だから、5年・10年先を睨んだ計画をしていただきたい。連携プレーで利用者が使いやすい交通体系を考えて頂きたい。小規模事業者の皆様もたくさんある中、大きい会社の両方が共存共栄する将来像が出来るようにお願いしたい。ワーキングメンバーでは無いのでそういう意見を述べさせてもらう。全く神田教授が言われるように危機感を感じている。

会長：

小規模事業者の存続を含め、地域が持続可能な形で生き残っていくための交通計画に関する意見。ダイヤ編成での連携、地域をもっと見て5年・10年先を考えて欲しいというご要望であった。

委員：

認定を得た方に配られる福祉タクシー券の金額が少なすぎると感じている。比和から来ているが、片道5,000円はかかるので、タクシーを使えば年に2回程庄原に出ればもう券は無い。そこが非常に気になっているし、受給するのも少しハードルが高いのではないかと。それらもあわせて交通を考えるうえで何故免許が返納できないのか、何故タクシーの利用やバスの利用が少ないのかというところを多角的に調べて頂きたい。

2点目は、比和の町内を走っている生活バスには添乗員が付くのだが、保育所登園の為に添乗員が付いている契約になっているため、保育所が利用される朝夕でしか委託料が計算されていない。しかし、実際は足が弱った人たちの介助に添乗員がとても役に立っていて、今はどちらかというと介助が目的になっている状態である。タクシーを使う場合は運転手が介助するが、バスでも買物した荷物を持ち、手押し車が必要な人、支えないとステップを登れない人たちが使う。タクシーを使う人、バスを使う人、福祉車両でなければいけない人、様々なレベルがあると思うが、計画策定の際に、こういった人たちはどこを使うのか、実際に使った時に運転手がどのように行動し、どういった形で運行するようになるのか考えて頂ければ、何故利用しないのかも少し見えてくるのでは無いかと思う。

最後に、スクールバス等町内を走っているバスで15人乗りのハイエースであるとか、29人乗りのマイクロバスを公用車として庄原市全体で何台持っているか考えた時に、土日使っていないのがもったいなさすぎる。「公用車だから」「スクールバスだから」ということで、他の事に使えていないのが現状で

あり、バスが余っている。もっと言えば運転手を確保できればもっと活用できるはずなので、少しその垣根を外して、もっと資源を有効に、効率的に使えるような計画が作れば、市民にとっても小さな事業者にとっても大変良いのではないかと思うので是非ご検討頂きたい。

神田教授：

最後の貴重な資源を上手く使うというのは、正にこの度法律が改正され、計画の掲げ方が変わる中で一番大きいポイントである。様々に違う目的で使われている車両を使えば良いという事。制度の改正の後になってくる可能性があるのですが、すぐに実現できるかどうかはさておき、一つの方向性としてそういった解決策が今後の計画策定の中で議論されるのかと思う。非常に良いコメントを頂いた。

委員：

今行っている MaaS の実験で地域のモニターに問いかけている一つが、都会の人は便利、田舎は不便なのかということ。しかし実際は都会の人は乗り継ぎ等でかなり歩いており、またある程度待たなければいけない等の話がある。ただ田舎で聞くと着いたらすぐ乗り換えて、必要な時に玄関まで来てほしいとなる。例えば日本の携帯には色々な機能が付いているが、実は使っているのは少し。それが日本の標準で、世界標準は極端に言うと本当に必要な機能だけが付いている。それを考えると今回の色々な問題をどこまでなら我慢して公共交通が利用できるのか模索していかないと、高機能な公共交通を要望して、庄原市民が他地域よりも高い税金を払うのかという話になってくる。そこも十分検討した取り組みをするにはどうしたらいいのかという意識を地域として高めていかなければならないのではないかと。

会長：

サービスと負担の関係、そういった事もあるかと思う。現在でも補助金が出ているのだが、それで限られた資源を有効に使ってパフォーマンスを上げていくという形だろうか。

委員：

ニーズはこのワーキング会議である程度集約出来ていると思う。それで今後バス路線や、色々なタクシーをどう使うのかという事にしても、この一つ一つのニーズの最大ボリュームがどれだけあるかをどうやって掴むのか。それがないと最終的に何もできない。1人のためにバスを増やす事は無い訳で、やはりアンケートの聞き方に工夫が必要。例えば町のここにさえ利用者が集まれば実はもう一本路線が運行できるといったことがあるかと思う。やはり何人か乗らないとどうしても出来ないと皆さん分かっているのだから、そういった情報提供を行わないと逆に1つ1つの小さなニーズだと駄目だろうなと思って最初から意見が出てこない場合があるかと思う。折角こういった意見があるので、これがどれくらいあるのかを上手く拾えれば将来的に何か使えないかなと思う。

2点目は、免許証の返納の件であるが、実はうちの父親は他所の地域であるが免許証を返納した。その後、市の循環バスのような小さなバスを使うようになった。ただ、それがあったから事故を起こす前に返納できたのかなというところもある。非常に難しい問題ではあるが、正直高齢者で危なっかしい運転をする人もいると思う。ただ本当にこれを返納したら生活出来ないという事もあると思うので、それらをどう補完するのが将来の公共交通計画を作る中で考えなければいけない所だと感じる。

会長：

ニーズの量的な部分が必要だということや、色々な視点からご意見をいただいた。資料4に色々な意見があったものお配りしているので、神田教授からの説明を受けて、地域で見た事、自身が体験した事等を含めてまた事務局に意見を出して頂ければ有難い。計画策定はこれからも続けるのでその中でも出して頂ければと思う。

7 その他

事務局：

第2回のワーキング会議について、11月13日に開催予定としている。

会長：

交通会議は、次回12月中下旬に開催予定とされている。

11月1日芸備線のイベントのPRについて事務局からあるか。

事務局：

11月1日にここの駅前ロータリーのオープニングセレモニーを行う。これにあわせて駅前のマルシェが開催され、市内事業者の出店、県警音楽隊の出演、トークショー等がある。加えて芸備線で備後庄原駅に来てもらう企画を芸備線対策協議会で作った。三次駅、備後庄原駅、向原駅、狩留家駅の4駅で同時にイベントを開催する。それをめぐるツアーを芸備線対策協議会で募集したところ完売しており、当日は広島方面から駅めぐりツアーで80人程度が呼ばれる予定となっている。逆に備後庄原駅からも30人余りが三次、向原方面に向かわれるようになっている。皆さんも是非、少しでも芸備線を利用して頂いて当日11月1日お待ちしております。

8 閉会